

# 日本を中心とした写真取引の歴史

## —ストックフォト事業の起源としての写真製版所、通信社、 アマチュア—

舟橋 広祐

現在、私たちは画像にあふれた生活をしている。そのような画像の供給先にはストックフォトというものがある。あらかじめ撮りためられた画像を保存しており、それを使いたい人は料金を払い使用することが出来る。しかし、一部の写真では用途が限定されるなど制約もある。

このストックフォトであるが問題も含んでいる。まず、デジタル社会において利用者は写真がどの程度加工されているか分からない。また、ニュース写真を供給するストックフォトでは権利面などで違法・不法、適法かあいまいな部分がある。このようなストックフォトであるが、インターネットメディアなどでは写真の供給元として利用が拡大していくと考えられる。

このようなストックフォトの先行研究としては、産業論的に論じたものが中心である。ストックフォトの現状の市場環境やストックフォトの直線的な歴史を論じたものであった。本論文では、ストックフォトの直線的な歴史ではない写真取引の歴史を明らかにした。まずストックフォトの画像の収集・蓄積・配信という行為に注目した。それらの要素の一部、もしくは全部が含まれたニュース写真の取引を抽出した。歴史や場所を横断した結果、「新聞社と写真製版所」、「出版社と通信社」、「新聞社とアマチュア」の3つの関係の歴史に焦点を当てた。本研究の手法としては、文献調査である。基本的には二次資料に依拠したものとなっている。多くは後世に記された研究や書籍などに拠るものである。

2章では、3つの関係の歴史を記す前に先行研究などに基づいたストックフォトの歴史とされているものを辿った写真取引の歴史を記した。国外では、アメリカが戦前からストックフォトの産業が盛んであった。日本では戦後にストックフォトの歴史が始まった。

3章では「新聞社と写真製版所」の写真取引の関係の歴史を記した。1900年代から1910年代を中心に写真製版所が写真を撮影、製版をし、新聞社に販売を行っていた。新聞に写真が掲載さ

れるまえは木版などを新聞社は利用していた。写真製版所による製版、印刷技術の開発により新聞社は掲載する写真に関して写真製版所に撮影から製版までを頼る構造となる。写真製版所が収集・蓄積・配信を行っていたのである。しかし、部数競争などで独自の写真を求められるようになり新聞社は内製を行うようになる。さらにはより遠くの写真を、より早く求めるようになる。伝送技術や航空輸送など技術や設備が高度化するようになり、通信社が台頭してくる。写真製版所は廃れていき、新聞社と写真製版所の写真取引の関係は消滅する。戦前の日本にはストックフォトに通じる写真取引が行われていたことが分かる。

4章では「出版社と通信社」の写真取引を扱った。戦後の日本の2大通信社である通信社(共同通信社と時事通信社)と著名な写真家であるロバート・キャパが設立したマグナム・フォトに焦点を当てた。戦後の日本においては2大通信社は週刊誌などの刊行により写真を欲していた出版社に写真を供給した。また、それは収益源となった。一方のマグナム・フォトは出版社よりも立場が弱くなる写真家の権利を守るために設立される。協同組合的な運営であり、メンバー間の対立も絶えなかった。また、テレビの普及によるグラフ誌の衰退の影響を受けることとなる。通信社はニュースなどの写真の収集・蓄積・配信を行っていた。出版社による写真の外注を通信社が受けてきたと言える。その後、デジタル時代に入りストックフォト企業であるゲッティイメージズが通信社と同じようにニュース写真の収集・蓄積・配信を行うようになる。

5章では「新聞社とアマチュア」の写真取引を扱った。戦後の日本において新聞社はアマチュアからニュース写真の収集を熱心に行おうとした。それは、戦後にカメラが大衆化したことにより、偶発的な事件や事故の写真を撮影する機会が増えたからであった。毎日新聞社では日本報道写真連盟というアマチュアの団体を設立した。理事には戦前から活躍した著名な写真家と非写真家の毎日新聞社の人間が就任した。しかし、日本報道写真連盟において新聞社とアマチュアと写真家にはズレが存在した。新聞社はニュース写真の収集という、取材網の拡充を行いたかった。写真家は「リアリズム運動」という芸術性をアマチュアに求めた。この時点でズレがあった。しかし、早々に写真家の「リアリズム運動」は頓挫する。また、新聞社もアマチュアにわざわざ写真の面で頼る必要がなくなった。むしろ、アマチュアの写真は倫理的な面などで扱いにくいケースもあった。さらに、アマチュアも多様化する。アマチュアの要求に新聞社が応えられなくなっていく。そうして、2021年に日本報道写真連盟は終焉を迎える。このように、新聞社がアマチュアの写真を集め、紙面に掲載するという写真取引が行われてきた。しかし、それは積極的に行われなかった。

ストックフォトという単語だけで追う直線的な歴史だけでは記されてこなかった「新聞社と写真製版所」、「出版社と通信社」、「新聞社とアマチュア」の3つの関係においてニュースに関する写真が取引されてきたことが本論文では明らかとなった。